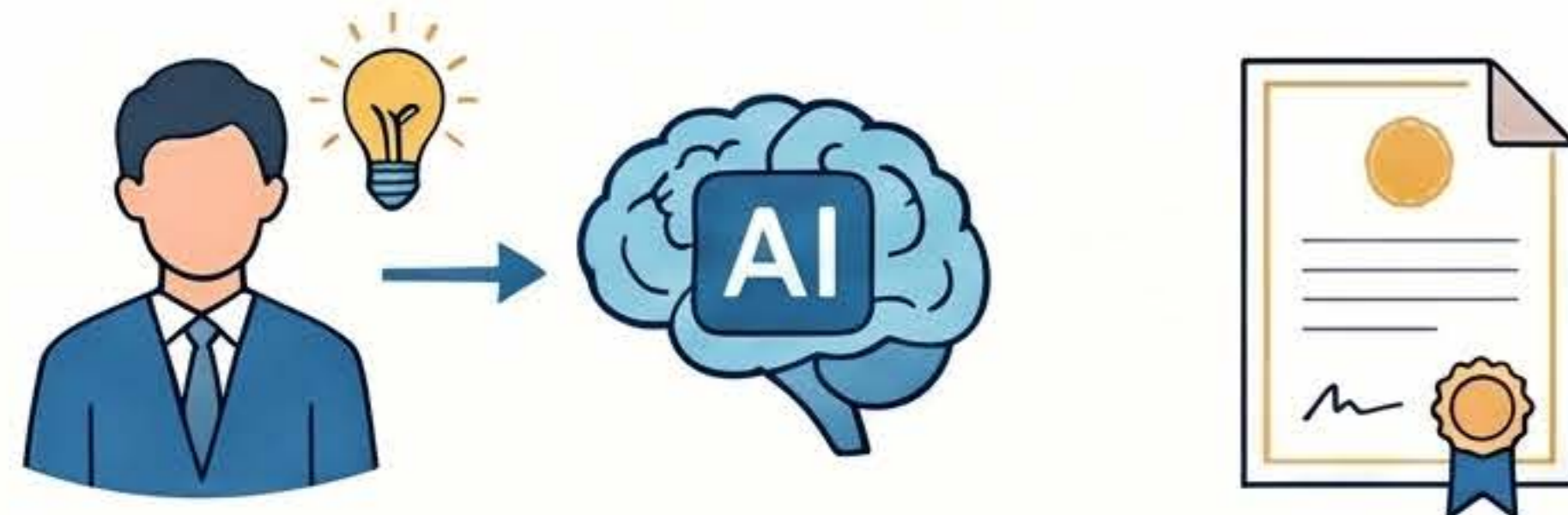


AI支援発明の「発明者」は誰か？日米の認定基準の違いとリスク分析

AIを利用した発明において、日本と米国で「人間が発明者として認められる基準」がどのように異なるかを視覚的に明示し、特許出願時におけるリスクを理解させる

共通の基本原則と日米の基準比較

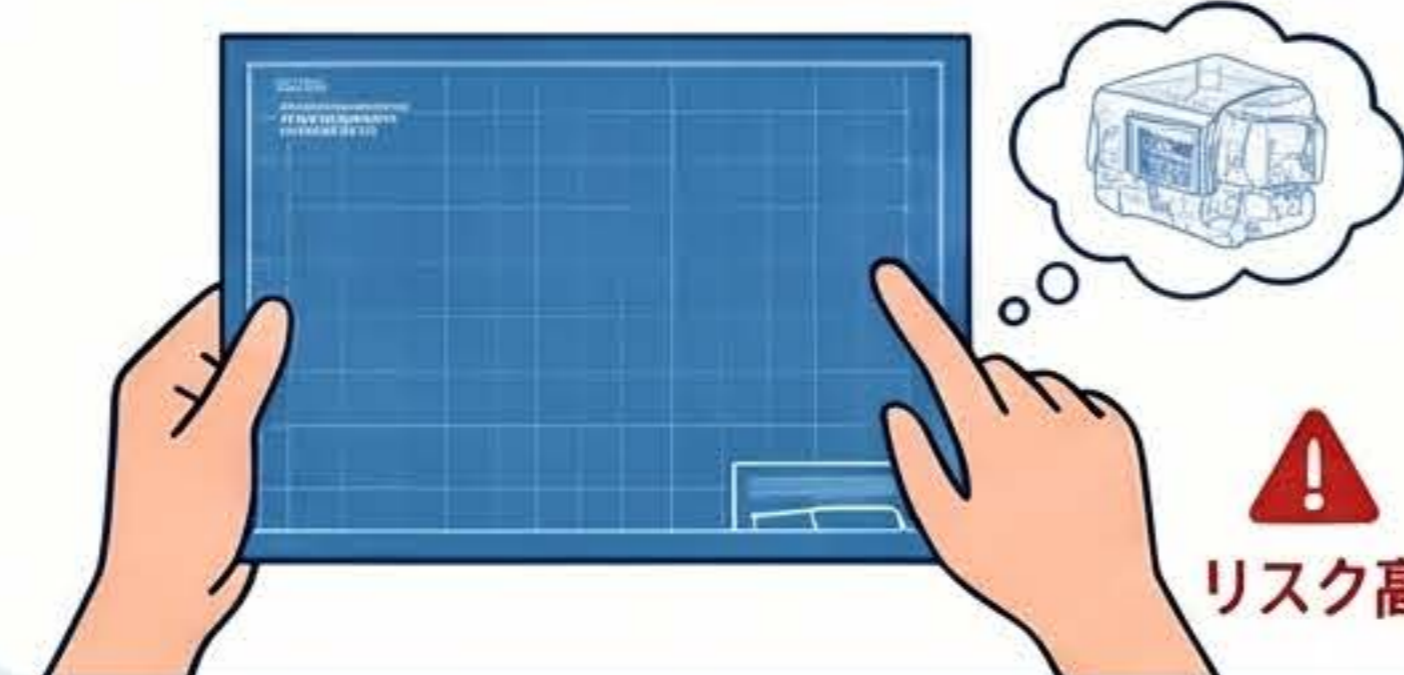
発明者は「自然人」のみ



日米ともに、AIそのものを発明者として認めることは現時点では否定されており、人間のみが発明者になり得ます。

米国：厳格な「構想(Conception)」重視

人間が発明の各構成を具体的に把握し、説明できる状態（心中での形成）にあることが必須。AIの出力を単に受け取っただけでは不十分です。



日本：核心部への「創作的寄与」を評価

発明の「特徴的部分」の完成に現実に関与したかを重視。AIへの指示や検索の具体化、効果確認などのプロセスが総合的に評価されます。

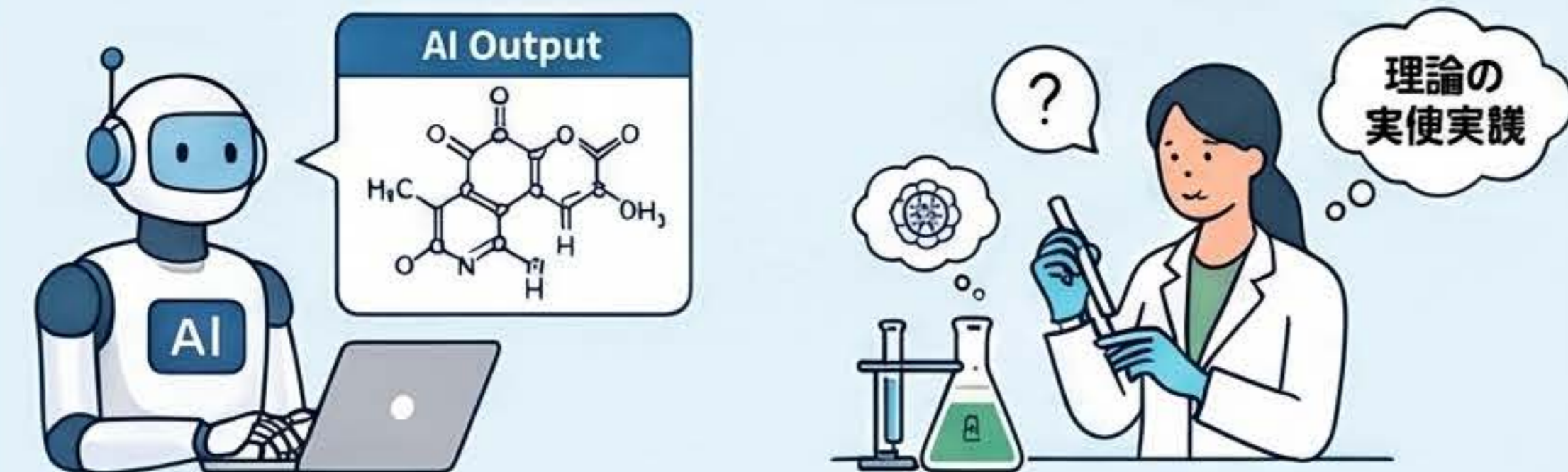


認定基準	米国	日本
主な認定基準	構想(Conception)	特徴的部分への創作的寄与
AIの出力認識	人間が具体的に把握・説明できることが志望	特徴的部分の完成に関与したかが重視される
共同発明の枠組み	AIと人間の共同発明は認められない(AIは道具)	AI開発者・利用者の寄与を総合評価する方向で検討中

判断が分かれる3つのケーススタディ

ケース1：AIが発見した新薬の分子構造

【状況】ITエンジニアが特殊なAIモデルを開発し、化学研究者がそれを使う



✗ **米国「否定」** ⚠️

米国では人間が構造を具体的に「構想」したとは見なされにくい

✓ **日本「認める余地あり」** ⚠️

日本ではAIと人間の「共同発明」の枠組みが適用されず、両者とも構想不足とされるリスクがあります

✗ **米国「否定」** ⚠️

米国ではAIと人間の「共同発明」の枠組みが適用されず、両者とも構想不足とされるリスクがあります

✓ **日本「認める余地あり」**

日本では両者の寄与を政策的に評価する議論が進んでいます

1万件のAI案からの選別と修正

【状況】生成AIが1万通りの設計図を出し、設計者が特徴的な部分を自ら抽出



⚠️ **米国「リスクあり」** ⚠️

米国では発明の核心がAI依存と見なされると否定されます

✓ **日本「認められやすい」** ✓

日本では人間による「抽出・修正」の行役が強い創作的寄与と評価される傾向にあります

AI開発者と利用者の分業

✗ **米国「否定」** ⚠️

米国ではAIと人間の「共同発明」の枠組みが適用されず、両者とも構想不足とされるリスクがあります

✓ **日本「認める余地あり」**

日本では両者の寄与を政策的に評価する議論が進んでいます

まとめと実務上のポイント

単なる「受領・選択」は世界共通でリスク プロンプトと改良プロセスの記録が重要



AIの出力をそのまま受け取るだけでは、日米いずれにおいても発明者性が否定される可能性が高い。



日本で認められるためには、AIへの検索条件設定や、出力の具体化・改良に人間がいかに関与したかを説明できることが鍵となります。